

萩ジオパーク推協だより

市民の皆さん、阿武町の皆さんとともにプレゼンテーションに臨みました

プレゼンテーション審査を通過！

夏の現地審査へ！

2018.5.21
特別版

5.19 日本ジオパークネットワーク認定申請プレゼンテーションが終了

萩ジオパーク構想推進協議会は、5月19日、幕張メッセ(千葉市)において、日本ジオパークネットワーク(JGN)新規認定申請地域プレゼンテーションを行いました。

会場では、会長である藤道健二萩市長をはじめ、花田憲彦阿武町長や市民代表者、事務局職員など総勢12名でプレゼンテーション審査に臨み、萩ジオパークの特徴と魅力、2年前の見送りを経てからこれまでの活動の変遷と今後の展望、そして、最後にネットワーク加盟への決意表明を行いました。

プレゼンテーション終了後、事前に提出した申請書とプレゼンテーション及び質疑応答した内容について審査が行われ、その結果、プレゼンテーション審査を通過。今夏予定される現地審査に進むことができました。

次は、3名の審査員を迎え、萩ジオパーク構想の実際の活動を現地で見てもらいます。



藤道健二 萩ジオパーク構想推進協議会会長 コメント

萩にとって再チャレンジとなる今回の申請にあたっては、「萩は地域の皆さんとともに着実に取り組んでいる」ということを、正確に審査員やJGNの方々にお伝えできるよう心がけてきました。

プレゼンテーションでは、花田阿武町長や萩のジオパーク活動に実際に取り組まれている地域の皆さんとともに、私たちの取組や今後の展望をしっかりとお伝えできたと考えています。

これまでの取組に一定の評価を得て、第一次審査ともいえるプレゼンテーションを無事に通過できたことにまずは安堵していますが、夏の現地審査に向けて、引き続き、萩の着実な取組が認められるよう関係各位の協力を得て全力で取り組む所存です。

15分間のプレゼンテーション終了後、25分間の審査員との質疑応答がありました

◆審査での主な質疑応答◆

質疑) 再度挑戦した理由と、なぜ萩にジオパークが必要なのか。

藤道会長) このジオパーク活動は地域活性化に必ずつながるものだ、また、教育活動に大きく貢献するものと考えたことから、課題解決の方向性も見えてきた本年に再度挑戦した。萩の各地域間が横につながり、ともに発展していくことを求めたとき、まさにジオパークの活動が最適だと判断した。

花田阿武町長) 阿武町は市町村合併をせず、三方を萩市に囲まれたところ。萩のように歴史文化遺産に恵まれた町ではないが、このジオパーク活動により、モドロ岬やイラオ山など阿武町にも地域の誇れる資源があることに気づかされた。今後、この資源を活かしたい。

*このほか2年間の改善点や、学術的な見地からの質問など多岐にわたる活発な質疑応答が行われました

◆プレゼンテーション参加者のコメント◆

●川岸さん(萩ジオマスター、ジオプランナー)●

自分たちのプレゼンがうまく行って感動した。
結果として良い感触だったと思う。
交流会やポスター発表の場で各地のスタッフと意見交換ができてよかった。

●藤田さん(萩ジオマスター、ジオプランナー)●

濃い2日間でした。
プレゼンテーションに向けての協議や本番の発表、交流会などいろいろなことを通して、考えること(私個人の宿題みたいな)ができました。
私個人はけっこう楽しくやっていますが、恩返しすることができればと思います。

*参加した皆さんの感想などは、次号でくわしくお伝えします

◆当協議会のプレゼンテーション参加者◆

藤道健二 萩ジオパーク構想推進協議会会長、萩市長

花田憲彦 阿武町長

奥山 構想推進協議会副会長、萩ジオマスター

川岸さん 萩ジオマスター、ジオプランナー

藤田さん 萩ジオマスター、ジオプランナー

金田さん 萩ジオマスター

井町さん 山口大学学生

脇田浩二 山口大学教授 構想推進協議会戦略顧問

協議会事務局

中村正弘事務局長、伊藤靖子事務局員、中村浩二事務局員、白井孝明専門員

以上、総勢 12 名

*会場には上記のほか、山口県市町課の川崎さんなど応援にかけつけてくださいました！



現地審査では“オール萩ジオパーク”で、大地と人のつながりの楽しみ方を伝えていきましょう！